

保健体育科学習指導案

日時 令和6年10月29日(木)5時間目
学級 2年B組 計24名
(男子10名 女子14名)
場所 川尻中学校 グラウンド
授業者 坂田 健児

1 単元名 球技 (ゴール型：サッカー)

2 題材設定の理由

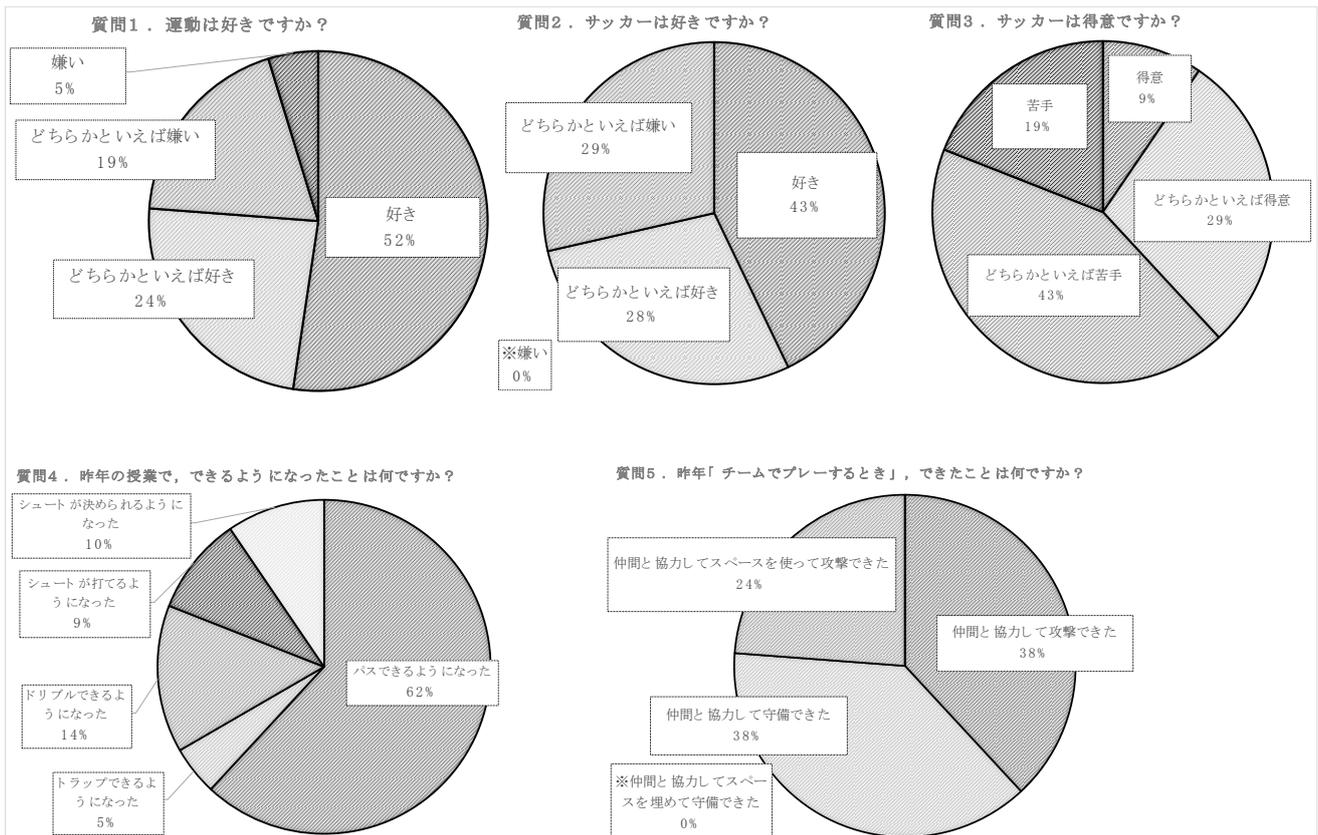
(1)単元観

ゴール型の特性

ゴール型 (サッカー) は、2チームがフィールド内を自由に動き回って、ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し、シュートを放ち、一定時間内に相手チームより多くの得点を競い合うゲームである。ボール操作する際は原則として手を使わずに足を使ってパスやボールをキープしたりすること、シュートはドリブルで運び込んだボールや味方から受けたボールを得点をねらって相手ゴールに放つこと、パスはマークされていない味方にボールをつなぐことなどが特徴である。その運動に関連して高まる体力では、敏捷性、スピード、全身持久力がある。

(2)生徒観

本学級の生徒は、事前のアンケートで「サッカーは得意ですか?」という質問に対して、どちらかといえば苦手・苦手と答えた生徒が全体の62%であり、苦手意識を持っている生徒が多い学級である。昨年の授業では、相手のいない場所 (スペース) 且つシュートが打てる場所を目指して攻撃する授業を行った。その結果、パスができたと答える生徒が62%であった一方で、シュートが打てるようになった、シュートが決められるようになった生徒の割合が19%という値だった。また、守備においては、仲間と協力して守備できたと答える生徒が38%いたものの、仲間と協力してスペースを埋めて守備できた生徒の割合は0%だった。このことから、シュートする場面のある授業を行いながら、スペースを目指して攻撃してくる相手に対して対応する守備の授業を行い、技能の上達や仲間と協力して練習や試合で達成感を味わえるような授業が妥当と考えられる。



(3)指導観

サッカーは他のゴール型の種目に比べると、足でボールを扱うため技能が難しい。特に、女子においてはボールを蹴ること、コントロールすることが難しく、また核となる部活動などで行っている生徒が非常に少なくサッカーの楽しさやおもしろさ、魅力を感じられないまま授業が終了してしまうケースが見られる。そこで1年次の単元前半では、サッカーにおける基本的な技術の「インサイドキック」やゴールする喜びを味合わせるため「シュート」に重点を当てて授業を展開してきた。単元後半では、習得した技術を応用し、チームでゴール前に空間を意図的に作りだした攻撃をする授業を展開した。

本年度では、基礎的な技能を土台としながら、守備をテーマにして、チームとして「意図的な守備」を構築することの重要性を指導したい。単元前半では、個人でボールを奪う技術の習得を、単元後半では、「どこでボールを奪いたいのか」という共通の意識を持ち、各自が役割を果たしつつ連携してプレイすることを目指す。アンケート結果から、スペースを埋めた守備の重要性を認識させ、生徒に疑問を持たせたい(課題発見)。個別の問いを活かし、ボールを個人でもチームでも奪う練習をしながら、自力解決や集団解決に繋げ、主体的に学ぶ生徒を育成したい。

3年次の単元では、「攻撃の組み立て」をテーマに授業を行い、単元後半では、試合→課題練習→試合→課題練習→試合…のサイクルの中で、「意図的な守備」と「攻撃の組み立て」のテーマを自チームの課題に応じて選択させたり、どうやったらできるようになるか考えさせたりして深い学びに繋げたい。

3 本単元における「本質的な問い」

本質的な問い	保健体育	豊かなスポーツライフを実現するためには、どうすればよいだろう
領域の本質的な問い	球技 ゴール型	どうやったら試合に勝てるだろう (攻撃：どうやったら点を奪うことができるだろう 守備：どうやったら点を守れるだろう)
単元を貫く問い	サッカー	攻撃：どうやったら相手のゴールを奪うことができるだろう 守備：どうやったら自分のゴールを守れる(相手のボールを奪える)だろう
個別の問い	攻撃	<ul style="list-style-type: none"> ・どこにボールを置くと、シュートが打てるだろう ・どこにパスを出せば、シュートが打てるだろう ・どこにいれば(行けば)、シュートが打てるだろう ・どこにいれば(行けば)、パスを受けられるだろう
	守備	<ul style="list-style-type: none"> ・シュートを打たせないようにするには、どうすればよいだろう ・どこにいればゴールを守れるだろう ・どうやったらゴールを守れるだろう ・ボールはいつ奪えるだろう ・ボールはどこで奪えるだろう ・ボールはどうやったら奪えるだろう ・誰がボールを奪いに行けばいいだろう

4 指導計画と評価計画と単元の評価基準（全10時間：本時8／10）

「E 球技」（ゴール型） 中学校第2学年における指導と評価の計画

単元の目標	知識及び技能	次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。 ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をする。										
	思考力、判断力、表現力等	攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。										
	学びに向かう力、人間性等	球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとするなど、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとするなど、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。										
競技の特性	2チームがフィールド内を自由に動き回って、ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し、シュートを打ち、一定時間内に相手チームより多くの得点を競い合うゲームである。ボール操作する際は、原則として手を使わずに足を使ってパスやボールをキープしたりすること、シュートは、ドリブルで運び込んだボールや味方から受けたボールを、得点をねらって相手ゴールに放つこと、パスは、マークされていない味方にボールをつなぐことなどが特徴である。その運動に関連して高まる体力では、敏捷性、スピード、全身持久力がある。											
学習の流れ	時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	授業づくりのポイント
	0	前時の復習・本時の見通し・本時のめあての確認・W-up（パス&トラップ）										
10	10	ドリエンターション・見通し・特性・安全上の注意・学び方	空間(スペース)を使ったシュート ・パス&シュート(シュートドリル)		前時の復習 ・1vs1 守備の原則① ☆止まっていく ☆マークの立ち位置 ※個人でボールを奪う ・川下り ・1vs1	前時の復習 ・1vs1 守備の原則② ☆マークとカバーもできる立ち位置 ☆ゴールを守る立ち位置 ☆意図的・組織的にボールを奪う ・2vs2+F ・3vs3+F	課題トレーニング ・ドリブルトレーニング ・パストレーニング ・前時までのトレーニング	作戦会議&チームトレーニング	リーグ戦			
	20		シュートゲーム ・2vs1+GK ・2vs2+GK ※DFの制限あり→制限なし	ライニングゲーム ・1vs1+1vs1(2vs2) ・1vs1+1vs1+1vs1(3vs3)	ライニングゲーム ・1vs1+1vs1+1vs1(3vs3)	ミニゲーム ・3vs3+GK	トレーニングゲーム					・ボール操作の反復練習を繰り返し行い、基本的な技能の習得を目指す。 ・ゴール前の空間の攻防をめぐる学習に課題を追求しやすいように、プレイヤーの人数、コートの広さ、用具、プレイ上の制限等を工夫する。 ・生徒からの問いを引き出し、主体的に学ぶ生徒の育成するための授業づくりを行う。 ・タブレットの動画撮影機能を使い、技能の習得やチームの課題発見・課題解決を効率的に進める。
30	ボール操作慣れ ・W-up(パス&トラップ) ・シュートドリル										単元のまとめ	
40		ゴールを奪う		ゴールを守る + ボールを奪う					ボールを奪う ↓ ゴールを奪う			
50		振り返り										
評価機会	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	評価方法	
	知	①							②		ワークシート タブレット(撮影)・観察 ワークシート・観察 ワークシート・観察	
	技		②	①		④			③			
	思				②			①		③		
態			③			①	②					
単元の評価基準	知	①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。 ②対戦相手との競争において、技能の程度に応じた作戦や戦術を選ぶことが有効であることについて、学習した具体例を挙げている。										
	技	①得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。 ②マークされていない味方にパスを出すことができる。 ③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。 ④ボールを持っている相手をマークすることができる。										
	思	①提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選ぶことができる。 ②学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。 ③仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。										
	態	①球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 ②一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを認めようとしている。 ③健康・安全に留意している。										

5 本時の学習

(1)本時の目標

ボールを奪うことができたり、相手の進行を遅らせることができるよう、ボールと相手が見える位置に立ってマークできる。(知識・技能)

(2)本時の評価基準

- A ボールと相手が見える位置に立ってマークができ、ボールを奪えたり相手の攻撃を進ませないことができる。
- B ボールと相手が見える位置に立ってマークができる。
- C ボールと相手が見える位置に立ってマークする努力を要する。

(3)学習の展開

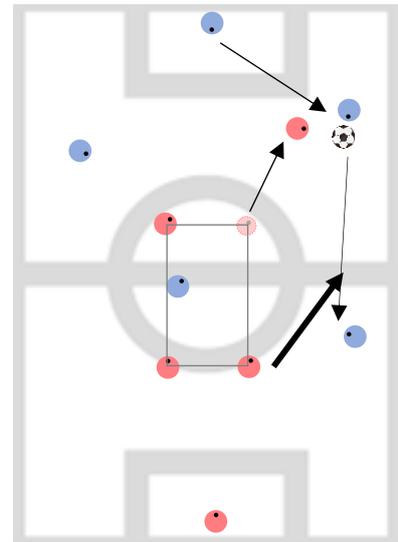
	学習内容	◎発問 ○指導上の留意点 ●指導上配慮のいる生徒への留意点	評価基準 (評価方法)
導入 (10分)	W-up ・ストレッチ ・パス&コントロール ・1 vs 1 (追いかけ→ボールキープ) 本時の確認 ・前時決めたグループごとの選択練習の確認【課題発見】 ・流れの確認 ・本時のめあて	○正確にパスとトラップを繰り返し指導する。 ●個別に技術指導を行う。	
相手の攻撃を止めることができる！			
展開 (35分)	グループ別選択練習(8分)【集団解決】 ・A グループ () ・B グループ () ※(6)選択練習メニューより生徒が選択する。	◎どこにいればマークもスペースも守れるだろう ○グループの能力に応じたコートやルールの変更を状況に合わせて行う。 ○攻撃側は素早く攻めたり、スペースを有効活用するよう指導する。 ●視覚支援のため、マーカー等で色分けする。	
	生徒の予想されるプレイ ・攻撃 味方やボールがあるところに密集する ・守備 マークへの距離が近すぎる ・守備 パス出されるタイミングで守備にいけない ・守備 1人が奪いに行った後、周りの生徒が連動していない		
	Game(24分)【集団解決】 ・1 試合目 A グループ 5+2分 ・2 試合目 B グループ 5+2分 ・3 試合目 A グループ 5分 ・4 試合目 B グループ 5分 片付け(3分)	◎どこにいればマークもスペースも守れるだろう ○良い守備の基準を示し、目指す姿をイメージさせながらプレイさせる。 ○攻撃側は素早く攻めたり、スペースを有効活用するよう指導する。	【知識・技能】 ボールと相手が見える位置に立ってマークができる。 (観察)
まとめ (5分)	振り返り【まとめ・振り返り】	○めあてに対して、自分が工夫したところやチャレンジしたことで身につけて力を認識させる。	

(4)板書計画

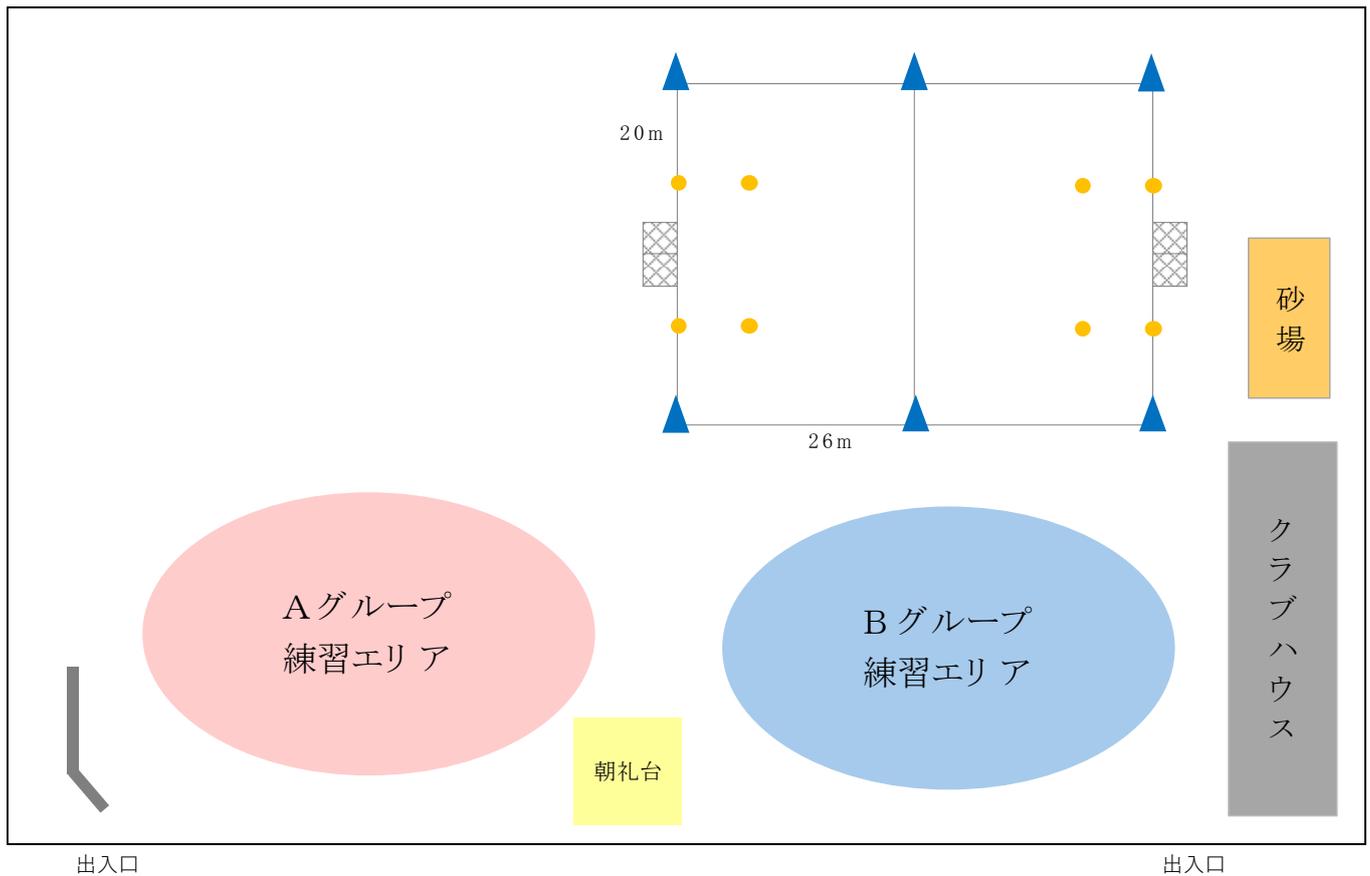
めあて： 相手の攻撃を止めることができる！

流れ

- 1 W-up→説明・確認
- 2 グループ練習 10分
- 3 Game 5分×4本
A→B→A→B
- 4 片付け→振り返り→提出②

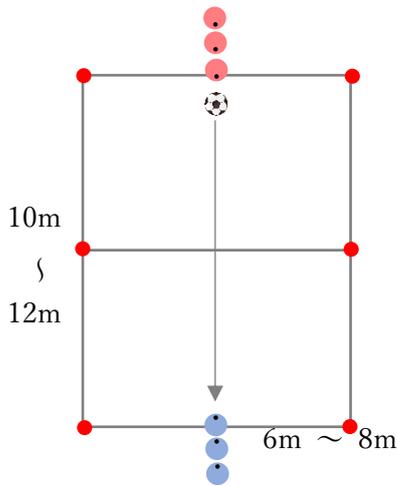


(5)場の設定



(6) 選択練習メニュー

メニュー① ライン突破型の1 vs 1ドリル 目的：個人でボールを奪う技術を上げる練習



ルール

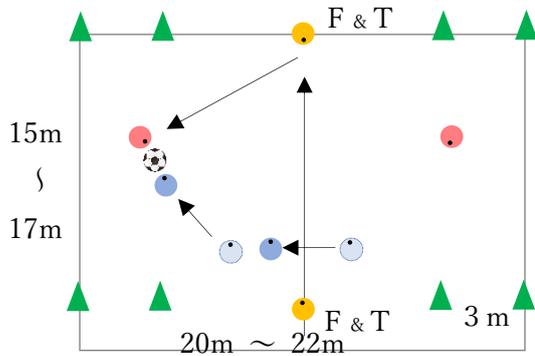
- ①相手にパスをする
- ②1 vs 1の開始 (パスを受けた側はオフェンス)
- ③オフェンスはライン突破

ディフェンスは奪ったら[優先1]反対側のラインを突破 or [優先2]コート外に逃げる

ポイント

- DF {
- ・ボールの移動中に相手に寄せる (近ければ近いほど Good)
 - ・相手がボールを触る瞬間に止まって対応する
- OF {
- ・素早くライン突破しに行く

メニュー② 2 vs 2 + F (フリーマン) + T (ターゲット) 目的：連動した粘り強い守備の練習



ルール

- ①Tから相手のFにパスしてスタート
- ②Tにパスを通したら2点
- ③コーンゴールをドリブル通過したら1点

ポイント

- DF {
- ・Tにパスを通させないようにしながらマークにつく
 - ・1人が抜かれても2人目が守備にいけるポジションをとる (スライド)
- OF {
- ・コートを広く使う
 - ・Fを優先的に目指し、目指せないときにコーンゴールを目指す

メニュー③ 3 vs 3 + 2 F (フリーマン)

目的：チームでボールを奪う練習

ルール

- ①ボールがあるコートに2人ずつ入れる (セパレート)
- ②Fから相手のFにパスしてスタート
- ③ライン突破したら勝ち (相手Fはディフェンスできない)

ポイント

- DF {
- ・バックコートに入れさせない、且つマークにボールが出てもディフェンスに行けるポジショニング
 - ・コースを限定して、ボールを出させる意図的なディフェンスを目指す
- OF {
- ・素早くフロントコートにボールを運ぶ
 - ・コートを広く使う
 - ・優先順位は前で、無理なら横や後ろを使う

